

令和3年3月22日

学校法人 敬心学園

令和3年度 事業計画書



敬心クレド

—他人を敬い自らを律し、人々の心を最も大切にします—
—一人ひとりが輝いて生きる社会を創造します—

《はじめに》

敬心学園は、「他人を敬い自らを律し、人々の心をもっとも大切にして、一人ひとりが輝いて生きる社会の創造」に基づき、「志」を育む教育を通じて自ら切り拓く「前へ」の精神を堅持し、日本のみならず世界の課題に関心を持ち、自立した「個」として高い専門的能力を発揮できる人材へ、また、変革を推進できる人材を育成することを使命にしています。

その根幹をなす総合的教育改革の実現のためには、安定したガバナンスを構築したうえで、財政基盤を強固なものとしつつ、キャンパスの整備、充実により教育環境の向上を図ることが必要となります。そのためには、計画性を備えた諸施策を推進するとともに、既存施設の段階的改修の実施、アクティブ・ラーニングを支援するための情報環境充実、共創的な学びの場の構築等を進めていきます。

《令和3年度の主な事業計画》

1. 各校における重点的な取り組み

■東京保健医療専門職大学における重点的な取り組み

- (1)専門職大学としての特色を活かした理論に基づいた実践的な教育の推進
 - 『健全者・障がい者、若年者・高齢者など多様な人々が「共生できる社会の実現と発展』という建学の精神のもと、「健康寿命の延伸」や「在宅医療・介護の推進」に寄与する能力育成にも力を入れ、地域社会に貢献できる保健医療専門職の育成に取り組みます。
- (2)環境の変化、社会の流れを捉えた教育方法、学習環境の構築
 - with コロナ、DX (デジタルトランスフォーメーション) などの流れを的確にとらえ、大学として求められる教育方法、学習環境の構築に積極的に取り組みます。
- (3)研究推進体制の整備
 - 保健医療分野の専門職大学としての創造的な研究を推進するとともに、学内研究会の開催、そして学外の研究資金獲得への支援体制整備を進めます。
- (4)地域との連携・貢献
 - 地域や産業界等と連携した専門職大学ならではの教育・研究の推進や、地域への貢献に取り組みます。
- (5)学生確保のための取り組み
 - 効率的・効果的な情報発信により大学の認知度向上を進めるとともに、推薦指定校の

拡大、高校との連携強化など入試戦略・学生募集活動の再構築を行い確実に定員充足ができる取り組みをしていきます。

(6)内部体制の構築・確立

➤既存の大学にはない科目構成、教育課程連携協議会を踏まえた管理運営など、専門職大学の特色を活かすための本学独自の体制構築とその確立に取り組み、設置計画の確実な履行を行ないます。

■日本福祉教育専門学校における重点的な取り組み

(1)日福ビジョン 2025 の浸透

➤①ビジョンに沿った年度計画を学科毎に策定し教職員で共有します。②校長と学科長との定期的な振り返りの場を設定しPDCAを回します。③目標シートを導入し、教職員個々のミッションを可視化します。

(2)教職員のモチベーションの向上

➤①1年課程昼夜間教員の就業規則の見直しに着手します。②ハラスメント対策委員会を立ち上げ、ハラスメント防止に努めます。③ミッションに基づいた評価制度を導入します。

(3)教育環境の整備と学生の学力向上

➤①ICTを活用した次世代型教育環境にチャレンジします。②学生情報を学生管理システムに一元化する事で、迅速な学生対応を可能にし、中退防止につなげます。③教員による学生面談の回数を増やし、学生の学力向上と中退防止に努めます。

■日本リハビリテーション専門学校における重点的な取り組み

(1)日リハ改革委員会の充実強化

➤教職員のグレードアップや適切な昇進等を行い学校運営及び教育の充実や組織力の向上を図ります。

(2)中退率改善分科会の充実強化

➤毎月開催の中退率改善分科会によりメンバーの中退防止対策（退学予備軍の早期発見・早期対応・複数教員による個別指導等）の共有と活用を図り学生中退防止に努めます。

(3)国家試験対策委員会の充実強化

➤6年目の令和3年度も過去の課題を明確にし、更なる合格率の向上を図り学校ブランド力の維持向上に努めます。

(4)新型コロナウイルス感染予防の徹底

➤毎月開催コロナ緊急会議によるコロナ関係の情報の共有と共に「発熱・体調不良時の対応マニュアル」や「PCR検査陽性者発生時の日リハ対応マニュアル」に基づきコロナ感染予防の推進に努めます。

(5)理学療法学科昼間部4年制の入学定員変更申請作業

- 理学療法学科昼間部 4 年制の入学定員変更（40 名→80 名）申請承認に向けて、所要の作業を進めて参ります。

■臨床福祉専門学校における重点的な取り組み

- (1)現場実践力の仕上げとしての育成と留年を出さないきめ細かなフォロー体制の徹底
 - 在校生（理学療法学科夜間部 4 年 1 クラス）に対し、しっかりした卒業までのフォローを実施していきます。

■日本児童教育専門学校における重点的な取り組み

- (1)3 つのポリシーに沿った教育の実践
 - 昨年度は本校の DP として「保育の基礎力『6 つの力』の獲得」として打ち出しを始めた初年となった。CP として継続中の「デュアル教育」の内容の深化や「認定絵本士資格」導入など、実践力を身に付ける教育内容を構築していく。加え DP、CP、に紐づいた AP の確立も図る。
- (2)ハイブリット授業の円滑化と対面授業時のコロナ対策の徹底
 - zoom と teams、インフォクリッパーを活用し、オンラインと対面授業のスムーズな支援体制の構築と学内業務の効率化を目指す。また小教室を大教室へ改修、消毒作業や学生の指導を徹底しコロナ禍の中でも安全な授業運営を図る。
- (3)学生募集において高校連携強化
 - 令和 2 年度に 1 校で実施した高校への出張授業や半日体験授業を他校でも開始。加えて、在校生イベントなどで、高校 1, 2 年生から本校や保育に興味を持てるよう高校生強化施策を実施。連携の活動を通し、高校の教員に専門学校の教育力について理解していただけるよう啓蒙活動を行う。

■日本医学柔整鍼灸専門学校における重点的な取り組み

- (1)日本医専ビジョン 2022 達成に向けた着実なプロジェクト推進
 - ビジョン設定から 5 年目。令和 3 年度はさらに、①確かな合格力の育成、②専門家との提携や新たな活躍フィールドの開拓、③学習支援体制の構築と人材育成に注力し、ビジョン達成に向けて推進していきます。
- (2)2022 年度改訂の新カリキュラム設計とカリキュラムマネジメント体制の構築
 - ①DP とカリキュラム・授業科目・授業外活動と連動した設計を行うとともに、②学期制、総時間数の見直しやオンライン授業の導入を検討してまいります。
- (3)DX 推進も踏まえた新・日本医専スタイル(構想)の策定
 - ①ICT 環境の整備(ハード面)、②デジタルならではの学び開発(ソフト面)、③日常業務にデジタル活用(支援体制面)という 3 つの側面から、魅力ある日本医専の新しいスタイルを策定していきます。
- (4)校舎移転に伴い、日本医専の魅力を表す施設・設備を拡充

2. 各部門における重点的取り組み

■事業推進支援部における重点的取り組み

敬心学園における中核的事業として、専門学校経営のより一層の健全化を図るため、令和3年度においても学校経營業績重要指標（教育力指標、学生募集指標、組織課題指標、学生支援指標、財務指標）に基づき、学校ごとにPDCAサイクルを回し、魅力ある「集まる学校」づくりに取り組んでいきます。

<学生募集活動>

本学園の財務基盤安定のため、また健全な学校経営のためにも引き続き学生募集の強化を最重要課題と捉え、教職員一体となって学生募集に取り組みます。

特に、コロナ禍でオンラインの活用が活発になる中、オープンキャンパスではハイブリット型（来校型とオンライン型の選択式）を継続して開催、ホームページでは学校紹介動画の有効活用をおこなうなど、より多くの志願者がコロナ禍でも進路選択しやすい募集活動を展開していきます。

また、常に志願者目線の視点を持ち、「学生の成長」「資格合格率」「就職率」「就職先からの評価」「卒業生の評価」「コロナ対応」など、志願者には信頼性を重視した情報を発信し、コロナ禍における進路選択への「不安」を「安心」に替える広報をおこなっていきます。

引き続き、各校での新しい募集活動への取組みや成功事例の共有を活発におこない、専門学校横断でのナレッジを蓄積し更なる募集活動のブラッシュアップを図っていきます。

<教育の質向上への取組み>

『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)』(2019年11月中央教育審議会)で提言されたように、今後、学修者本位の教育への転換、学修成果の可視化など、教学マネジメントの確立が求められます。こうしたなか、職業教育研究開発センター(通称:RDIセンター)と連携し、専門学校横断での授業力向上プロジェクトを推進。『テーマ別授業技術の習得目標』の設定およびそれに基づく研修会の実施など、より一層の教育の質向上に努め、職業教育の充実を図っていきます。

<中退率削減に向けた取組み>

オンライン授業導入2年目として、「オンライン授業における中退予備軍の早期発見」を共通課題として取り組んでいきます。

専門学校横断のプロジェクト(中退率削減プロジェクト)では、「1年生オリエンテーションの目的やテーマの見直し」「オンライン授業における補講・補習の方法」「学生管理帳票の活用法」など、中退リスクとなる学生のモチベーション低下や学力不振を早期に発見し、予防するためのさまざまな取組みについて検討・実施していきます。

令和3年度も引き続き中退率5%以内を目指し、プロセス指標(「同一授業3回連続欠席件数」「中退予備軍発生件数」「休学者数」「中退率着地見込み数」等)の同時期比較を行いながら、各校での取組み事例の共有、中退者並びに中退率予備軍の早期発見・早

期対応など、低減に向けた取り組みを積極的に展開していきます。

■職業教育研究開発センター（通称：RDIセンター）における重点的取り組み

学園教育支援活動、調査研究活動、事業開発（収益）活動の3本の柱で事業活動を行う当センターは、それぞれの活動で、以下を重点とした取り組みを行ってまいります。

<学園教育支援活動>

授業力向上プロジェクトの活動を通じて、教員の授業力向上のためのプログラムを確立します。また、教員の研究力向上に向けて、学内の研究支援体制、および研究成果の発信体制の整備に取り組みます。さらに、職業教育研究集会・ジャーナル等の内容の充実を図ります。

<調査研究活動>

文部科学省委託研究事業、ERIA 委託研究事業等への取り組みに関し、研究内容の一層の充実、および研究成果の事業化に向けた活用方法の検討を進めます。

<事業開発（収益化）活動>

調査研究活動を通じて蓄積した知見をもとに、既に収益化を実現しているインドネシア教育事業モデル、ハルピン教育事業モデルの東南アジア諸国へのヨコ展開を図るべく、事業化実行体制の確立、準備・種まき等を進めます。また、eラーニング、VR活用教育などの新たな研究事業成果に基づく事業化の検討を行います。

これら事業開発（収益化）活動の継続的な取り組みにより、安定した収益の獲得を目指します。また、国内における収益事業として、昨年度コロナ禍のために実施できなかった介護教員講習会をオンラインにて開催すべく、プログラム改訂・教材の準備、実施体制の整備を進めます。

■学園本部における重点的取り組み

- (1)学園全体の教職員の人事管理システム（カオナビ）の整備と活用を推進します。
- (2)敬心学園基本規程等及び東京保健医療専門職大学の規程等の見直し・修正・制定を行い、出来上がった修正案については、規程等検討委員会で審議し、各規程の整備に取り組みます。この取り組みを通じ、コンプライアンス体制の整備及びガバナンスの強化を図ります。
- (3)専門学校グループ各校の規程の現状調査を行い、各校の規程の見直し・修正・整備に取り組みます。
- (4)前年からの持ち越し事案である給与規定、評価制度を含む人事制度の見直しを行います。
- (5)内部監査室は、各校に対する会計監査及び公的研究費監査（専門職大学）を計画に基づき実施し、監事及び会計監査人と連携を図り、適格かつ効率的な監査に努めていきます。なお、業務監査については、上記2の諸規定の整備状況を確認していきます。

3. 設置する学校の定員および教職員数

令和3年度における入学定員・収容定員および教職員数は以下の通りです。

	専門職 大学	日本福祉		日本 リハ	臨床 福祉	日本 児童	日本 医専	専門学校		敬心全体	
		通学	通信					通学	通信	通学	通信
入学 定員	160	478	750	150	0	240	240	1108	750	1268	750
収容 定員	640	676	1550	600	40	520	720	2756	1550	3196	1550

(単位：人)

	専門職 大学	日本福祉		日本 リハ	臨床 福祉	日本 児童	日本 医専	専門学校		敬心全体	
		通学	通信					通学	通信	通学	通信
教員 数	52	32	5	27	9	18	24	110	5	162	5
職員 数	21	18	4	12	4	14	18	66	4	87	4

※非常勤講師やアルバイト職員は除く

(単位：人)

以上